

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2013年9月)

発表日2013年11月11日(月)

～季節調整済経常収支が赤字に～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 星野 卓也

TEL : 03-5221-4526

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2012	7月	6,625	3,602	▲ 7,558	▲ 4,936	▲ 2,622	12,106
	8月	4,448	6,559	▲ 4,984	▲ 2,590	▲ 2,394	12,400
	9月	5,137	▲ 402	▲ 11,951	▲ 8,980	▲ 2,971	12,368
	10月	4,208	5,010	▲ 6,403	▲ 4,498	▲ 1,905	12,144
	11月	▲ 1,796	3,633	▲ 7,179	▲ 5,092	▲ 2,087	11,744
	12月	▲ 2,307	2,152	▲ 8,537	▲ 6,331	▲ 2,206	11,983
2013	1月	▲ 3,484	4,356	▲ 7,805	▲ 6,062	▲ 1,743	11,923
	2月	6,497	▲ 207	▲ 13,100	▲ 11,465	▲ 1,635	13,573
	3月	12,831	3,672	▲ 9,100	▲ 7,704	▲ 1,396	13,555
	4月	7,844	8,976	▲ 8,984	▲ 8,023	▲ 961	18,964
	5月	5,666	6,464	▲ 4,789	▲ 4,776	▲ 13	12,462
	6月	3,777	6,930	▲ 6,545	▲ 5,751	▲ 794	14,343
	7月	5,773	3,337	▲ 10,390	▲ 9,219	▲ 1,170	14,633
	8月	1,615	3,518	▲ 7,382	▲ 5,643	▲ 1,739	11,603
	9月	5,873	▲ 1,252	▲ 14,949	▲ 13,487	▲ 1,462	14,675

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支(季節調整値)は7ヶ月ぶりの赤字に

9月の経常収支(原数値)は5,873億円の黒字(コンセンサス:4,008億円、レンジ:331~7,719億円)となった。季節調整値をみると、1,252億円の赤字(8月:3,518億円の黒字)と、7ヶ月ぶりの経常赤字となっている。9月の経常赤字化の主因は、貿易・サービス収支(8月:7,382億円赤字→9月:14,949億円赤字)の赤字拡大だ。9月の貿易・サービス収支および貿易収支(季節調整値)は、現行統計で比較可能な1996年以来最大の赤字幅となっている。

内訳をみると、貿易収支(季節調整値)の赤字幅が8月から大きく拡大(8月:5,643億円赤字→9月:13,487億円赤字)している。輸出金額が前月比▲4.7%と減少したことに加え、輸入金額は同+8.0%と増勢を強めたことが貿易赤字拡大の理由だ。足もとの輸出は、EU向けに持ち直しがみられるものの、ASEANやNIEs向けの低迷を背景に増勢が一服している。こうした中、国内需要の堅調さを背景に電気機械等の輸入が増えており、輸入は増加傾向で推移している。前半は輸出の回復を支えに赤字幅の縮小がみられた貿易収支だが、ここへきて赤字縮小の動きが止まっている。

## ○所得収支の黒字拡大傾向が続く

貿易外収支(季節調整値)の動きをみると、所得収支は14,675億円の黒字(8月:11,603億円黒字)と黒字幅が拡大した。8月の所得収支は黒字幅が大きく縮小したが、9月はリバウンドしている。8月の縮小は一時的なものだったようだ。所得収支は、黒字拡大傾向が続いているとみて良い。

所得収支の内訳をみると、直接投資収益（8月：2,424億円の黒字→9月：4,993億円の黒字）、証券投資収益（8月：8,460億円→9月：9,349億円）ともに拡大している。先行きの直接投資収益は①海外経済の回復傾向や、②昨年にかけて海外直接投資が活発化したことを背景に、拡大傾向での推移が予想される。証券投資収益についても、豊富な対外純資産や昨年末からの円高修正などを背景に水準を切り上げていくだろう。

サービス収支は、1,462億円の赤字（8月：1,739億円の赤字）とほぼ横ばいであった。前半は輸送収支や旅行収支の赤字縮小などを背景に、赤字幅の縮小傾向が明確化していたが、足元の赤字縮小ペースに一服感が窺える。為替レートの円安傾向に落ち着きが生じていることなどが背景にあると考えられる。

## ○消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の一巡後、経常黒字は拡大基調へ

先行きを展望すると、所得収支黒字は、企業の海外進出や円高修正などを追い風に、引き続き黒字拡大傾向を辿る見込みだ。加えて、足もとで増勢に一服感がみられる輸出も、海外経済の回復や過去の円安による数量効果を背景に、緩やかな増加基調での推移が見込まれる。

一方、消費税引き上げ前の駆け込み需要を背景に、目先の輸入は増勢が強まる可能性が高く、目立った貿易赤字の縮小、および経常黒字の拡大は見込みづらい状況にある。駆け込み需要の影響が一巡したのち、貿易赤字の緩やかな縮小や所得収支黒字の拡大により、経常収支は緩やかな黒字拡大局面に入ると予想している。

